

(右) 現在、シュューベルト音楽祭が行なわれているシュヴァルツェンベルグのアンゲリカ・カウフマンホール外観(下右) ホール内での演奏会(下左) 隣接する教会内での演奏会(写真3点とも/シュヴァルツェンベルグ観光協会提供)



(右) ホーエネムス宮殿外観(写真/筆者提供)(上) 宮殿の中の『騎士の間』での演奏会(写真/ホーエネムス観光協会提供)



室内楽の愉しみ

渡邊學而(音楽評論家)

室内楽は、演奏会用のホールで聴くのも素敵ですが、ヨーロッパなどでは、そうしたホール以外の、たとえば宮殿や貴族の館の中の部屋とか中庭、あるいは教会などを会場に行なわれることも多いのです。

ご参考までに、いつも私が6月に訪れるシュューベルト音楽祭とモーツァルト音楽祭での会場の写真をご覧頂ければと思います。

シュューベルト音楽祭は1976

モーツァルト音楽祭は、ドイッ中部の都市、ヴェルツブルグでレジデント(王宮)内のいくつかの豪華な部屋を使っている。



(上) ヴュルツブルグ王宮外観(写真/筆者提供)(下) 今年、モーツァルト音楽祭で室内楽演奏が行なわれた宮殿内の『日の間』(写真/ヴュルツブルグガイドブックより)

10/7(火)

開場：18：30 / 開演 19：00
ゆとろぎ大ホール(全席指定)
一般・学生とも 2000 円

羽村チャリティーコンサート

ウィーン フーゴ・ヴォルフ ピアノ三重奏団 with 山寺明子(ヴィオラ)

主催：(財) 青梅佐藤財団
後援：羽村市・青梅市・羽村市教育委員会・青梅市教育委員会
協力：ゆとろぎ協働事業運営市民の会

撮影：Gyula Fodor



チケット
好評発売中

前号でもお伝えした、ウィーンからの室内楽合奏団『ウィーン・フーゴ・ヴォルフピアノ三重奏団』のゆとろぎ公演が間近となりました。

今回のゆとろぎ公演にあたって、青梅市出身のヴィオラ奏者、山寺明子さんが客演します。

山寺さんは玉川大学芸術学部ヴァイオリン科を卒業。後にヴィオラの音色に魅せられて転向。99年以来、ウィーン・ザイフェルト弦楽四重奏団、ウィーン・ア

ルカディア・ピアノ四重奏団の日本公演に招かれて客演しています。

10数年に及ぶザイフェルト四重奏団とのきっかけは、同団のメンバーの一人で、プロフェッサーの称号をもつエドワード・クドラック氏が山寺さんのヴィオラの恩師であったことに由来します。以来、(財) 青梅佐藤財団主催による同団ほかのコンサートが青梅市で定期的に行なわれるようになり、ザイフェルト氏をはじめとするウィーン・

フィルのメンバーと青梅市民の交流へとつながっています。

ウィーン・フーゴ・ヴォルフピアノ三重奏団のゆとろぎ公演にあたって、羽村市・羽村市教育委員会は(財) 青梅佐藤財団の趣旨に賛同し、青梅市・青梅市教育委員会とともに、ゆとろぎ公演を後援することになり、ゆとろぎ協働市民の会も全面的に協力しています。音楽を通じた交流の輪が広がろうとしています。



山寺明子(ヴィオラ)